

令和 2 年度  
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
 成果報告書

団 体 名	いわき市	
施 設 名	いわき芸術文化交流館	
助 成 対 象 活 動 名	普及啓発事業	
内定額(総額)	9,913	(千円)
公 演 事 業	0	(千円)
人材養成事業	0	(千円)
普及啓発事業	9,913	(千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	
1				目標値	
				実績値	
2				目標値	
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1				目標値	
				実績値	
2				目標値	
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

### (3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	第6回 いわき文化春祭り※	2年5月16・17日(中止)*	新型コロナウイルス感染症の影響により中止	目標値	10,000
		大ホール		実績値	—※
2	いわきアリオス×いわき市文化施設連携事業※	2年3月4~7日※	出演：弦楽四重奏団ヴィルトス・クワルテット	目標値	300
		震災伝承みらい館※		実績値	95
3	こどもの劇場2020・夏「ふしぎの国のアリス」※	2年7月4日(中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	296
		中劇場		実績値	—※
4	アリオス・ワンコインコンサート※	①2年9月26日、 ②3年2月13日	出演：①川口成彦（フォルテピアノ）、 ②玉川奈々福（浪曲）、沢村豊子（曲師）	目標値	533
		文化センター大ホール、 ②音楽小ホール		実績値	332
5	まちなか連携プロジェクト いわき街なかコンサート2020 いわき芸術文化交流館中劇場会場※	2年10月3・4日(中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	1,000
		中劇場※		実績値	—※
6	第25回・第26回たんけんアリオス※	2年12月27日※	演出：大信ペリカン 出演：佐藤隆太、吉野孝俊	目標値	180
		中劇場		実績値	67
7	リージョナル・シアター2020 ①浜通り舞台芸術祭 ②劇団ごきげんよう※	2年6月13日～ 3年3月21日	演出：三浦直之（ロロ）、藤田貴大（マームとジブシー） 講師：杉山至 出演：望月綾乃、森本華、島田桃子ほか	目標値	1,000
		オンライン、芸術文化交流館		実績値	566
8	おでかけアリオス※	2年8月31日～3年3月10日	出演：んまつーポス、NHK交響楽団ほか	目標値	2,000
		市内小中学校ほか		実績値	1,965
9	アリオス・キッズルームシアター※	3年2月28日	出演：プロジェクト大山、古家優里、長谷川風立子	目標値	180
		いわき市文化センター		実績値	37

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

#### 自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

当館では、文化芸術の持つ力を信じ、

- ①市民生活を豊かにすること
- ②誰もが平等に文化芸術に触れられる場を創出すること
- ③生きる力を育み、本市で生活を送る嬉しさや喜び、そして誇りが持てるようにすること

を社会的役割と捉え、市民の生活支援を担う公的施設として事業運営を行なっている。

特に地域の劇場・音楽堂として、「地域で子どもを育てる環境の充実」を目指し、具体的には「子どもの文化芸術体験活動」を広く、深く、豊富に提供することを重視した事業展開を行っていくこととしている。

#### 【本市の実情】

本市は東日本大震災をはじめとし、この10年間、地震や洪水などの自然災害、福島第一原発事故の影響によって日常生活が脅かされることが多い。さらに昨年から新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、市民にとっては不安やストレスを抱えながら本市で生活を送ることになってしまっているのが実情である。

このような状況下で地域の劇場・音楽堂として、市民が今必要としていること、当館がすべきこと、やれることはなんなのかを常に考え、そして精査し、今当館で実施できる最善の策を講じながら、様々な実演芸術を用いて事業を展開している。

#### 【令和2年度について】

前述したミッションを達成するために、当館のハード面を活用した観賞・普及・育成・創造事業のほか、アウトリーチ事業、文化施設等との連携事業等を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響と、2021年2月13日の福島県沖地震による影響での臨時休館などを受け、プログラムの内容変更、実施方法の変更、会場変更、延期や中止など余儀なくされ、当初の予定通り実施できた事業は少ない。

そんな中、集客や参加者の人数など、事業に関わる市民は通常の状態から比べると減少してしまっているのは事実であるが、この状況下で新たに挑戦したオンラインを活用した内容に変更した事業においては、本市以外からの参加や想定数よりも多い人数が参加したりと、今後の事業運営において必ず生かすことが可能な手法を獲得できたことは大きく、「生活支援型アートセンター」として市民生活に新たな事業プログラムを提案する幅を広げることができた1年となった。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

#### ・地域コミュニティの変化

中山間地域での人口減少は急速に進み、当館の開館以降の13年間で、4地区（田人、三和、好間、四倉）で合計16の小・中学校が統廃合されている。その影響により、地域コミュニティの変化はさまざまな形で加速しながら進んでいる。特に中山間地域における小・中学校の存在は、地区のコミュニティ維持拠点的な意味合いも大きく、統廃合により学校がなくなった集落への配慮は地区全体の課題となっている。一方、震災と原発事故により予想外の影響を受けたのは、むしろ都市部および沿岸部のコミュニティである。原発事故の避難指定自治体からの避難者の移住による人口増加、とりわけ新興住宅地を有する地域では世帯数の増加が顕著である。沿岸部の地域は津波被災によって居住エリアに変化が生じ、またそのことによって世帯構成人数が減少するなどしている。

#### ・地域コミュニティが抱える課題に起因するニーズ

上記のような地域課題に対して、文化芸術の分野からどのようなことができるかを、震災後10年目を迎えた現在の最重要課題ととらえ、アウトリーチ事業「おでかけアリオス」を中心にさまざまな事業を展開している。それは単なる芸術普及啓発の範疇を越えることだけでなく、本市当局のさまざまな部署との連携（教育委員会・保健福祉担当分野・市民生活担当分野・経済活動担当分野・地域振興担当部局 他）地域住民らによるコミュニティ（集落ごとの自治会・青年会・青年団）への綿密な聞き取りからスタートさせ、ニーズを押し量った上での事業展開を実践している。

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

平成 28 年度から平成 30 年度の 3 年間の事業アンケートの実績をもとに目標値を設定。

#### 【平成 30 年度から令和元年度の事業アンケート集計表】

どの項目においても満足度は 90% 近くを得ている。その中でも「大変満足している」の数値を指標とし、目標値を設定する。

平成30年度合計(平均)				令和元年度合計(平均)				令和2年度合計(平均)			
	大変満足している	満足している	満足度	大変満足している	満足している	満足度	大変満足している	満足している	満足度		
1 公演内容の満足度	70.1	15.4	85.5	65.7	16.9	82.6	74.0	14.5	88.5		
2 情報の入手、チケットの予約・購入のしやすさ	52.5	31.8	84.3	52.5	34.9	87.4	45.1	40.9	86.0		
3 年間ラインナップ	38.3	33.6	71.9	27.1	39.3	66.4	24.3	37.0	61.3		
4 総合的ないきいきアリスに対する満足度	47.3	35.0	82.3	39.8	42.5	82.3	43.4	47.7	91.1		

#### ◎事業の目標を以下の通り設定

1. 公演内容の「大変満足している」の目標値を 75% とする
2. 公演情報の入手、チケット予約・購入のしやすさの「大変満足している」の目標値を 55% とする
3. 公演の年間ラインナップの「大変満足している」の目標値を 40% とする
4. 総合的な当館の「大変満足している」の目標値を 50% とする。

達成状況は以下の通りである。

1. 公演内容の「大変満足している」の目標値を 75% とする  
→結果：74.0% 達成率：98.7%
2. 公演情報の入手、チケット予約・購入のしやすさの「大変満足している」の目標値を 55% とする  
→結果：45.1% 達成率：82.0%
3. 公演の年間ラインナップの「大変満足している」の目標値を 40% 目標とする  
→結果：24.3% 達成率：60.8%
4. 総合的な当館の「大変満足している」の目標値を 50% とする。  
→結果：43.4% 達成率：86.8%

#### ◎アウトリーチ事業やワークショップ等の事業の目標を以下の通り設定

1. 実施内容の「とてもよかった」の目標値を 90% とする
2. また参加したい（体験したい）かの「とても参加したい」の目標値を 70% とする

達成状況は以下の通りである。

令和2年度合計(平均)			
	とてもよかった	よかった	満足度
1 公演内容の満足度	83.1%	8.7%	91.8%
	とても参加したい	参加したい	満足度
2 また参加したいか	59.7%	37.0%	96.7%

1. 実施内容の「とてもよかった」の目標値を 90% とする  
→結果：83.1% 達成率：92.3%
2. また参加したい（体験したい）かの「とても参加したい」の目標値を 70% とする  
→結果：59.7% 達成率：85.3%

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

#### 《事業期間》

令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、当初の計画通りに実施できた事業は少なく、延期や中止など様々な事案が生じた。4月から8月までに計画していた事業においては予定通り実施できたものは無く、年度後半へ実施時期をずらしての対応かつ感染症対策を考慮した内容に変更しての実施となった。

#### 《事業費について》

##### ◎予算策定時における収支目標

普及啓発事業：32.3%

##### ◎最終決算

普及啓発事業：31.7%

新型コロナウイルス感染症の影響により事業中止となったり、感染拡大防止のため、客席の定員や参加者の定員を通常の半分にしたこと、収入が減少してしまったことより収支目標に届くことはできなかった。

収支のバランスだけでなく各事業における事業費は、期間や実演芸術家への報酬を事前にしっかりと練り込むことで、余計な支出、あるいは不足がないように適切な設計はできている。

令和2年度においては、当初の計画通りには約9割の事業が実施できなかったというのが事実である。しかし、非常事の日常生活の中で文化芸術を通じて市民生活を支えることを念頭に、計画を変更してでも試行錯誤しながら事業を実施したことは、本市にとっても市民にとっても心の支えに大きく寄与したことも間違いのない事実である。

#### 《変更点・中止理由》

【1. 第6回 いわき文化春祭り】緊急事態宣言が発出され、市内の公共施設等が臨時休館になり稽古できる会場を各出演団体が確保できなく作品を創り上げられない状況だったことと、感染拡大を鑑み中止となった。

【2. いわきアリオス×いわき市文化施設連携事業】(4) 創造性の自己評価に記載

【3. こどもの劇場 2020・夏「ふしぎの国のアリス」】緊急事態宣言が発出され、稽古ができない状況となったことと、年度内でのスケジュール調整が困難だったため中止となった。

【4. アリオス・ワンコインコンサート】1公演は予定通りの日程で実施。もう1公演は、感染拡大防止のため、ソーシャルディスタンスを確保できる十分な広さを持った会場に変更して実施。両公演とも、感染拡大防止のため会場の総客席数の半分を定員として実施。

【5. まちなか連携プロジェクト いわき街なかコンサート 2020 いわき芸術文化交流館中劇場会場】市外からも多くの実演家が出演する事業であることから、実行委員会と協議の上、感染拡大防止のため中止となった。

【6. 第25回・第26回たんけんアリオス】緊急事態宣言が発出され、7月開催分(第25回)の稽古時間を十分に確保することが困難だったため、12月開催分(第26回)を7月開催分の延期事業とし、12月開催分を中止とした。感染拡大防止のため、通常午前・午後での2回実施のところを3回に回数を増やし、各回の定員を減らした上で、参加者同士のソーシャルディスタンスの確保と備品を共通使用しない実施内容に変更して実施。

【7. リージョナル・シアター2020 ①浜通り舞台芸術祭 ②劇団ごきげんよう】(4) 創造性の自己評価に記載

【8. おでかけアリオス】緊急事態宣言が発出されたことにより、5月～7月に予定したものは8月以降に延期して実施。「おでかけアリオス研究会 オーディション」においては、新型コロナウイルス感染症の影響でオーディション後の研修が計画通りに実施することが困難であると判断し中止。「アウトリーチ情報交差点」は全国の劇場・音楽堂でアウトリーチを担当している職員を主な参加者としていることから、感染拡大防止のためオンラインを活用した内容に変更して実施。その結果、例年の4倍近くの方にご参加いただいた。(4) 創造性の自己評価にも記載有り

【9. アリオス・キッズルームシアター】乳幼児とその家族を対象にした事業であることから、慎重に実施可否の判断と実施内容の見直しをし、①実施回数を6回から1回に減少 ②実施会場を予定より大きな会場への変更 ③参加者の定員を減らす など策を講じて実施した。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

当館は開館以来、事業（ソフト面）や施設（ハード面）に対し多くの賞を受賞している。

#### 【第33回有馬賞】

平成25年には、国内最高峰の実演芸術団体であるNHK交響楽団より、「第33回有馬賞」を受賞した。当館のアウトリーチ事業「おでかけアリオス」等が、震災復興への貢献や、音楽の普及に寄与してきたことが評価され、開館当初から業務提携を結び、東北唯一の定期演奏会を実施してきたことで、NHK交響楽団の活動に貢献したことが、受賞の理由となっている。

#### 【地域創造大賞（総務大臣賞）】

平成26年には、文化芸術の振興による創造性豊かな地域づくりの貢献が評価され、(財)地域造像より「地域創造大賞（総務大臣賞）」を受賞。

#### 【文化庁長官表彰（文化芸術創造都市部門）】

平成26年には、行政が住民、企業や大学と協力し、地域の特色を活かした文化芸術活動によって、地域振興を図り、顕著な成果をあげたとして、「文化庁長官表彰（文化芸術創造都市部門）」を受賞。

#### 【キッズデザイン賞2017】

平成29年には、宮崎県を拠点に活動する実演芸術団体「んまつーポス」との協働により、子どもの豊かな感性や創造性に寄与する活動等で成果をあげたとして、特定非営利活動法人キッズデザイン協議会より「キッズデザイン賞2017」を受賞した。

これらの受賞歴が示すように、当館が地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮した事業を展開していることを、対外的にも評価されてきた。それは開館から今まで、様々な事業を高い水準で実施してきたことが要因としてあげられる。

鑑賞事業においては、常に芸術性の高さ、内容の独創性を念頭に置いて実演芸術団体を選び、市民の「世界への窓」たることを目指してきた。

一方で、アウトリーチやワークショップ、市民と一緒に作りあげる創造事業では、常に市民の目線に立ち、一方的に文化芸術を押し付けるのではなく、本市で育まれてきた人や土地を活かした事業を目指してきた。

文化芸術における最高峰の体験と、本市に根差した文化芸術の育成を同時に行うことで、地域の文化拠点としての役割を存分に発揮することができたと考えている。

		表彰名		表彰者	受賞の理由	受賞者
		①	第33回有馬賞 受賞：平成25年10月5日	NHK交響楽団	おでかけアリオス等による震災復興への貢献。音楽の普及、NHK交響楽団への貢献。	いわき市
ソフト面における受賞	②	地域創造大賞：総務大臣賞 受賞：平成26年1月17日	(財)地域創造	文化芸術の振興による創造性豊かな地域づくりの貢献。	いわき市	
	③	文化庁長官表彰 (文化芸術創造都市部門) 受賞：平成26年3月31日	文化庁	行政が住民、企業や大学と協力し、地域の特色を活かした文化芸術活動によって、地域振興を図り、顕著な成果をあげた。	いわき市 ※本庁舎ロビーに展示	
	④	キッズデザイン賞2017 受賞：平成29年度	特定非営利活動法人 キッズデザイン協議会	子供の豊かな感性や創造性に寄与する活動等を行い、成果をあげた。	いわき芸術文化交流館 宮崎大学高橋るみ子研究室 んまつーポス	
	⑤	照明普及賞 受賞：平成21年5月21日	照明学会	照明学会により優秀な照明施設に授与される賞	いわき市 佐藤尚巳 湯山康樹	
ハード面における受賞	⑥	日本建築家協会優秀建築選 受賞：平成21年度		優秀な建築作品に授与される賞	佐藤尚巳建築研究所 清水建設株式会社	
	⑦	国際建築賞 2010 受賞：平成22年5月		世界各地の最先端の優れた建築デザインに贈られる賞で、世界的に最も名誉ある賞のひとつ	佐藤尚巳建築研究所 清水建設株式会社	
	⑧	劇場技術者協会 建築賞優秀建築賞：平成22年7月		アメリカの劇場技術者協会が世界規模で優れた劇場施設に贈る賞。(国内3施設目)	いわき市	
	⑨	北米照明学会照明賞優秀賞 受賞：平成22年7月5日		芸術的、科学的見地から優れた照明デザインに与えられる、世界的に権威のある賞のひとつ	佐藤尚巳 湯山康樹	
	⑩	第51回 BCS賞 受賞：平成22年11月15日		創立100周年を迎える「建築業協会」が、毎年我が国の優れた建築物に贈る賞。国内の建築関係者からも毎回大きな注目を集める権威ある賞	建築主：いわき市 設計：佐藤尚巳建築研究所・他 施工：清水建設株式会社・他	
	⑪	第31回福島県建築文化賞 優秀賞 受賞：平成26年度		福島県において、地域の周辺環境に調和し、かつ景観上優れている建築等に贈られる賞	いわき市	



## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

当館の4カ年事業戦略（2019年度～2022年度）において、最も重きを置いているのが『連携』事業である。事業の特徴としては、市内の文化施設と連携したコンテンツを開発することで、聴衆には当館単独ではカバーしきれない「地域資源」の学びと、当館の強みである「実演芸術」の魅力発見の両面を効果的に提供できる点大きい。

令和2年度の連携事業は、新型コロナウイルス感染症と、令和2年福島県沖地震の影響により当初予定していた会場での開催が不可能になったため、東日本大震災から10年の節目に、今年度本市に開館した「いわき震災伝承みらい館」での演奏をメインにした事業を行った。中心市街地から離れた沿岸部に立地している関係で集客に課題があると聞いていたが、本事業の実施により、市内外から初めて同所を訪れたという方が多かった。演奏の前後に行われた被災者の講話や、展示を観覧していただくことで、東日本大震災の教訓を振り返り、「心の日常」の回復のために必要な文化芸術の役割とその重要性について、改めて感じていただく相乗効果が得られた。連携館の職員からは今後も同種の取り組みをしたいとの申し出をいただくなど、意義深い取り組みとなった。

温泉旅館での公開リハーサルは、弦楽愛好家のほか、ふだん演奏会場になかなか足を運べない未就学児や障がいを持った児童と保護者らも訪れ、奏者との交流も行えた。日帰り入浴を兼ねて鑑賞して帰った訪問者や宿泊者もあり、今後、本来の企画趣旨で再度実施する際に、万全の協力体制で行えるという手ごたえを感じた取り組みだった。

公演の最終的な実施決定は直前になったが、連携先の SNS からの発信や顧客への呼びかけにより、これまで当館の事業と関わりの薄かった方々が関心を持ち、来場につながったことも、今後につながる成果と考える。

演劇を軸とした市民との創造事業「リージョナル・シアター」も同じく当初の計画のままでは実施が困難であったことから、①オンラインを活用した「オンライン演劇部『家で演劇を考える』」と、②「マームとジプシー×いわきアリオス『上演を展示する』」に内容を変更して、この非常時の中だからこそ生まれる地域の演劇を探る事業を実施した。

①では、本市を離れて勉学に励む本市出身の若者とオンラインでの創作に挑戦し、新型コロナウイルス感染症の影響で新生活を望んだ形でスタートできなかった若者に活力を与えつつ、文化芸術の新たな可能性を模索する機会となった。

②では、人が集まることのできない状況の中で、新しい手法を用いた作品づくりに取り組めたことが最大の成果であり、ここで制作した作品は、アフターコロナの時代に新作の演劇作品へと変化していく可能性を秘めており、今後も継続的なプロジェクトとして取り組んでいくこととしている。

アウトリーチ事業「おでかけアリオス」でも、子どもたちと実演家とが直接対面でプログラムを実施するのが困難なものにおいては、オンライを活用しリモートで身体表現ワークショップを実施した。この取り組みについては、令和2年度第72回舞踊学会大会にて「芸術家×教師の新しい協働からみえたオンライン授業の可能性」として題して、宮崎大学連携センターと上海日本人学校虹橋校と当館での合同研究発表も行った。日本だけではなく、世界中で同じ状況下にあるのも事実であり、海外も含めての実演芸術の在り方と、教育現場との協働の在り方を探ることができたのは大きな成果と言える。

このほか、新型コロナウイルス感染症の対策の1つとして「不活化防止」を目的に、ダンス、音楽、現代アート、演劇、園芸、あそびなど、文化芸術を通じたコンテンツを無料で配信する企画「おうちでアリオス」をスタートさせ、年度内に59本のコンテンツを発信した。NHKニュースや県内の新聞社やラジオ局などマスコミ各社で取り上げられ、本市での文化芸術を途絶えさせない為にも、市民生活を支える為にも、絶え間なく当館からアプローチを続けたことは本市にとっての文化芸術の発展に繋がったと考える。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

#### 【運営方式について】

当館は開館以来、事業運営を「市の直営」、施設維持管理を「PFI事業者による管理」とする併用方式を用いている。

#### 【雇用について】

##### ① 事業の公共性の視点

公の施設として、公共性・公平性の視点に立った利用者サービスを円滑に進めるとともに、市の直営方式に固有の庶務・財務事務を適正に処理し、専門スタッフを中心とした自主企画事業の推進をサポートするため、市の正規職員（11名、うち専従10名）を配置。

##### ② 事業展開の有効性の視点

劇場・音楽堂運営、舞台芸術に関しては、特殊かつ高度な技術を要するものであることから、各分野において専門的かつ高度な知識・経験を有する優れたスタッフを、全国から招聘・募集し、会計年度任用職員（33名）を雇用。

これらの運営および雇用方式により、以下のメリットが得られていると考えている。

- ◇専門分野におけるスタッフを会計年度任用職員で雇用することで、市の正規職員のような人事異動が無いことから専門性の継承が確保される
- ◇会計年度任用職員として雇用した専門スタッフは単年度契約更新を基本とし、最大5カ年の雇用。以降の更新は人事評価を行った上で決定しており、職員の質の維持が可能
- ◇会計年度任用職員の退職に伴う補充採用に当たっては、地元在住者の採用を選考の一視点としており、地元の人材育成を志向している
- ◇市の正規職員の配置により、市特有の財務事務、庶務事務に対応出来るとともに、関係部署との円滑な連絡調整が可能
- ◇舞台設備の補充や設備機器の補修は、PFI事業者との連携体制により、即時の対応を可能としている
- ◇当館の建設準備時代から築いてきた市民や市民団体とのネットワークを有効に引き継ぐことが出来ている

また、現在の運営方式（直営とPFI制度の併用）は令和4年度まで（15年間）が事業期間となっていることから、令和5年度以降の運営体制に関しては、利用者・市民へのヒアリング調査、他館の状況調査、今後の大規模改修計画等を踏まえながら検討を行った。その結果、令和14年度までの10年間について、事業運営は直営を継続し、維持管理業務は包括的民間委託で行うこととしている。

#### 【収益基盤と財源について】

開館以降当該水準を大きく逸脱することなく推移していることから、館の運営が安定した状態にあると言える。しかしながら、今後、人口減少や少子高齢化などによる社会構造の変化の中で、財政上の制約が強まることが想定され、当館においても、事業運営上の本旨に重点を置きながらも、経費縮減と自主財源の獲得に、より一層意を用いる必要があると考えている。

#### 【各方面とのネットワーク形成】

全国規模の劇場・音楽堂の職員を対象にした研修への参加および講師としての参加や、他館からの職員研修の受け入れ、当館自主事業での情報交換会の実施、他館との連携事業の実施など、普段より全国の劇場・音楽堂とのネットワーク強化を目指し運営している。また、当館の事業を通し、本市教育委員会の理解の元、市内小中学校へのアウトリーチ事業の実施や、市内の高等学校の文化部への支援活動、教育大学の協同による事業の実施、音楽大学をはじめとする大学等からのインターンシップの受け入れなど、教育機関とのネットワーク強化にも力を入れ運営している。

#### 【施設面】

施設の維持管理に当たっては、市が事業者を選定したPFI事業者（いわき文化交流パートナーズ）と館スタッフが連携し、中長期の維持管理計画に則り、適切な修繕・維持管理を実施している。

また、「いわき市公共施設等総合管理計画」に基づき、施設を将来にわたり総合的かつ計画的にマネジメントしていくための「いわき芸術文化交流館個別管理計画」を令和3年6月に策定した（計画期間：令和14年度まで）。